

令和 4 年 6 月 13 日現在

機関番号：16301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2021

課題番号：19K00345

研究課題名(和文) アメリカ日系移民一世の強制収容所における伝統短詩文学の包括的研究

研究課題名(英文) haiku

研究代表者

青木 亮人 (Aoki, Makoto)

愛媛大学・教育学部・准教授

研究者番号：90647364

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、アメリカ日系移民一世が太平洋戦争時に強制収容所に収容された状況下において日本語の短詩型文学である俳句を詠み続けたことに着目し、その作品を研究した内容である。

研究の結果、類型的な作品が多く、季語も類型的な季節感を有する作品が多かった。しかし、その類型的な作風からこそ収容所内の日系移民一世は安堵と望郷の念を抱くことができたことが作品分析から判明した。つまり、彼らは文学表現としての傑作を詠もうと日々努力したわけではなく、秘かに日本文化に触れ続ける契機として俳句に親しんだのである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の成果は、従来専門的な見地から分析や意義、研究がなされなかったアメリカ日系移民一世の収容所内での俳句作品を解釈することで、類型的な俳句作品にむしる意義を見出した点にある。それは日本語を母語とする日系移民一世が収容所内におけるアイデンティティをいかに定立するかにも密接に関連し、その点を明らかに出来た意義がある。この意義は、今後、ますます多様化かつ国際化される社会において、また日本とアメリカ両国間における歴史、文化の意義を考察する際に大きな知見を寄与することができると考えられる。

研究成果の概要(英文)：This study focuses on the fact that first-generation American Japanese immigrants continued to compose haiku, which is short form literature in Japanese, while they were detained in concentration camps during the Pacific War.

As a result of the research, there were many works with a typology, and many kigo (season words) had a typological sense of the season. However, from the analysis of his works, it became clear that the first-generation Japanese immigrants in the camp were able to feel relief and longing for home because of his typological style. In other words, they did not make daily efforts to compose masterpieces as literary expressions, but became familiar with haiku as an opportunity to continue to secretly experience Japanese culture.

研究分野：近現代俳句研究

キーワード：近代俳句 日系移民1世 日本語俳句 アメリカ強制収容所 日本語近代文学

1. 研究開始当初の背景

近年、アメリカ日系移民研究は「今一つの近代日本史／米国史」を帯びたマイノリティ研究として重視され、特に彼らの文学作品は注目されつつある。アメリカ社会の中、日系移民がいかなる心象風景や故郷観、希望や挫折感を抱き、それらを日本語でいかに表現しようとしたかが鮮明にうかがえるためだ。彼らの文学は自明とされる「日本・米国」の国家・文化像を問直し、かつ急速に国際化した近代日本の歪みを示す研究分野としても脚光を浴びたのである。中でも太平洋戦争時、強制収容所で大量に発行された文芸雑誌は関心を集め、例えば篠田左多江は各収容所発行の諸雑誌を調査して『日系アメリカ雑誌集成』(1997-1998)を刊行し、日比嘉高『ジャパニーズ・アメリカ』(2014)は収容所内の雑誌事情や流通等の研究にも着手している。その文芸雑誌で最も盛んなのが短歌・俳句等の短詩形文学だったが、専門家がいなかったために作品分析は未開拓である。従って、短詩形文学の解釈に焦点を当てたのが本研究開始当初の背景である。

2. 研究の目的

本研究の目的は、収容所で詠まれた短詩文学の孕む「沈黙」にこそ、日系移民の日本人としての心情や主張が最も示されていたのではないか、という点を明らかにするものであった。

太平洋戦争勃発後、日系移民は敵国民として収容所に隔離され、監視下に置かれた。日本語印刷物は検閲を通過せねば印刷できなかった。同時に、土地や労働等を奪われた日系移民たちは膨大な自由時間を得ることになる。ゆえに殺伐とした収容所生活を穏やかに過ごすための趣味を求め人々や、日本人の存在意義を見出そうとする人々が続出した。彼らは日本語で文学作品や日記を綴ることを選ぶ場合が多かったのである。ただ、問題が二点あった。

- ・監視や検閲があるため、政治問題や日本礼讃、また反抗的な内容や自由・権利を強く求める主張は不可。手間のかかる単行本刊行も困難。
- ・小説や随筆はある程度の文筆経験や教養を有し、収容所内での長文執筆の持続力も困難。

上記問題を解決したのが、文芸雑誌を刊行して短歌・俳句・川柳等を積極的に発表するという方法であった。検閲を意識して言外の「沈黙」に心情を濃く漂わせ、しかも「五七五(七七)」をなぞることである程度の文学作品として整えることが可能で、小説より手軽であった。日系移民たちは日本語による短歌・俳句等を詠むことで自己表現の喜びを獲得し、「沈黙」に託することで精神の安定と日本人たる自覚を密かに抱いたのである。

従来、短詩文学の「沈黙」に深く分け入り、収容所内での日系移民のアイデンティティや「心情」の研究は停滞状況にあり、なぜ収容所内で最も盛んだった文学表現が短詩だったのか、その理由が不明なままであったため、上記を研究目的としたのである。

3. 研究の方法

下記二点を主軸とし、最終的に交錯させることで「沈黙」の表象を具体的に分析する方法とした。

- ①全体像、共通点の画定：収容所で発行された文芸雑誌（『日系アメリカ雑誌集成』全22巻所収の復刻版、JICA 横浜海外移住資料館所蔵、アメリカのサクラメント州立大学及び全米日系博物館所蔵）掲載の短歌・俳句・川柳を網羅的に分析することで全体像を把握し、「心情」パターンや主張の位相を分類し、多数の短詩に共通する「沈黙」を定義する。
- ②個別性、私的状況下で詠まれた短詩の解釈：収容所内で日系移民一世がまとめた自筆日記に綴られた短歌・俳句を対象とする。活字化された①と異なり、自身や家族宛に綴った個人的な「沈黙」を分析し、①との共通点と差異とを抽出する。

上記①②を通じ、収容所で詠まれた短歌・俳句・川柳の【表現パターン・「沈黙」パターン・「日本」観】をそれぞれ分類し、アメリカの収容所内で一世移民が日本語の短詩文学に託した「心情」の全貌を活字・肉筆資料双方から明らかにし、立体的に浮き上がらせるのが本研究の方法である。

4. 研究成果

日本語圏と他言語圏の季節感及び人生観の差異、特に日米両国における戦時下の短詩型文学の比較分析を行い、それらの知見を強制収容所内での日系移民一世の短詩型文学の解釈に活かし、令和初年度に収集した日系移民一世資料の分析を進めると同時に、オンラインでの打ち合せ等を通じてアメリカ西海岸の強制収容所関連の博物館や記念館に未整理の日本語資料が相当数存在することを確認できたのは大きな発見であった。ただ、令和二年から世界的に新型コロナウイルスが発生し、パンデミックで渡航その他が全般的に禁止となったため、当初の研究計画や推進方法等を大幅に変更し、研究初年度から最終年度にかけて予定していたアメリカでの現地調査及び記念館・博物館等での資料収集、また日系移民一世の子孫へのインタビューや各大学の専

門家との詳細な打ち合わせ等がいずれも困難となり、研究予定の大幅な変更を余儀なくされた状態が続いたため、オンラインを活用した研究方法を取りながら研究の成果を図った。

日本国内で収集した一次資料や文献、また各分野の先行研究の成果に加え、各国大学で実施した講演や授業を通して得た季節感等の差異を踏まえながら作品分析及びアメリカ日系移民一世の文化位相を分析しつつ、戦前台湾、朝鮮、満州等の植民地における日本語俳句や短歌に加え、日本国内の俳句雑誌を中心とする俳句作品の位相とも比較することでアメリカ日系移民一世の短詩型文学の特徴を浮き彫りにする研究を進めた。

また、強制収容所下における日系移民一世の母国語による短詩型文学の表象分析を行った際、一世移民の文化観の中でも特に季節感や風景描写に潜む人生観は、アメリカの一般的な季節感や人生観と異なると同時に、日本における俳句表現としての季節感及び人生観等をより純粋に、典型的に純度を高めた価値観を軸に詠む傾向にあることがうかがえた。

なお、このような分析は、当時のアメリカの一般的な季節感並びに人生観等を把握するとともに、日系移民一世の韻文表現における季節感等との差異を把握する必要もある。そのため、戦前アジア各国の日本語圏俳句との比較分析とともに、当時の日本国内の俳句雑誌の確認に加え、アメリカの日系移民二世（英語を母国語とし、アメリカ国民として教育を受けた世代）の季節感や人生観を調査するとともに、そもそも日本語圏とアメリカの英語圏における季節感や風景描写に滲む人生観の差異等の比較分析を行った。

研究方法の大幅な変更に伴い、上記の両国文化、季節感の差異について比較分析するため、令和二年度はオンラインにてポーランドのニコラウス・コペルニクス大学、ヤギェロン大学、ドイツのデュッセルドルフ大学、ボン大学、ミュンヘン大学、またアメリカのワシントン大学、ユタ・バレー大学、ルイス&クラーク大学、オクラホマ大学等で講演や授業、共同授業等を実施することで、日本語圏と他言語圏（特にアメリカ）の季節感及び風景描写の差異を調査分析した。同様に、令和三年度はアメリカのルイス&クラーク大学、オクラホマ州立大学、カラマズー大学、ワシントン大学、ウィリアム&メアリー大学、またドイツのデュッセルドルフ大学で特別講義を行い、アメリカ及びヨーロッパ圏の季節感や短詩観、また人生観と風景描写の位相等を考察した。

これらの分析を通じて得た知見を多くの国内外の執筆に活かすことができ、国内での学術紀要誌「俳句研究」や俳句関連の商業誌及び俳句雑誌に掲載している評論や、ドイツのデュッセルドルフ日本人会会報、またアメリカのボストン日本人会会報等でもその成果の一部を反映することができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 青木 亮人	4. 巻 13
2. 論文標題 私たちの「俳句」観を探る 戦後から令和への俳句史を辿りながら	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 きごさい	6. 最初と最後の頁 92-100
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青木亮人	4. 巻 73
2. 論文標題 アメリカ日系移民の収容所俳句	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 俳文学研究	6. 最初と最後の頁 6-7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青木亮人	4. 巻 6月30日
2. 論文標題 歴史に対する敬虔さ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 朝日新聞	6. 最初と最後の頁 13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青木亮人	4. 巻 169
2. 論文標題 俳句をどのように詠めばよいか	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 デュッセルドルフ日本人会会報	6. 最初と最後の頁 8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青木亮人	4. 巻 3373
2. 論文標題 台湾を愛した人の句文集 天野健太郎句文集『風景と自由』書評	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 週刊読書人	6. 最初と最後の頁 6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青木亮人	4. 巻 125
2. 論文標題 敗北と片言	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 船団	6. 最初と最後の頁 26-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青木亮人	4. 巻 62-8
2. 論文標題 薄暮の黒衣、月見の拳法 戦前満州、台湾俳句のいくつか	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代詩手帖	6. 最初と最後の頁 91-99
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青木亮人	4. 巻 29-11
2. 論文標題 季節と追憶35 絵のような海	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 氷室	6. 最初と最後の頁 16-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青木亮人	4. 巻 28-12
2. 論文標題 季節と追憶24 ドイツの冬	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 氷室	6. 最初と最後の頁 16-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青木亮人	4. 巻 293
2. 論文標題 逸話のさざめき、句の面影12 山口青邨	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 俳句界	6. 最初と最後の頁 140-143
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計26件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 青木 亮人
2. 発表標題 日本文化の季節感、特に春の桜を惜しむ心について - 俳句や絵画などを例に考える - (アメリカ、ボストン日本人会)
3. 学会等名 ボストン日本人会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 青木 亮人
2. 発表標題 日本文化の季節感と「喪失」の明るさについて
3. 学会等名 デュッセルドルフ日本クラブ
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 青木 亮人
2. 発表標題 俳句表現の特徴、日本文化のありよう
3. 学会等名 ワシントン大学
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 青木 亮人
2. 発表標題 昭和俳句の特徴 「ホトトギス」、プロレタリア、モダニズムについて
3. 学会等名 トゥールーズ・ジャン＝ジョレス大学
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 青木 亮人
2. 発表標題 俳句の近代化の特徴、正岡子規や山口誓子など
3. 学会等名 ミュンヘン大学大学院
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 青木亮人青木亮人
2. 発表標題 「花」の静けさ、眩しさについて
3. 学会等名 デュッセルドルフ大学
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 青木 亮人
2. 発表標題 金沢ゆかりの俳句、短歌の解釈について
3. 学会等名 ボン大学大学院
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 青木亮人
2. 発表標題 中日文化・文学の差異と魅力 「花」や「色」を中心に
3. 学会等名 中国遼寧師範大学国際学院
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 青木亮人
2. 発表標題 「桜」と「無常」について
3. 学会等名 ニコラウス・コペルニクス大学
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 青木亮人
2. 発表標題 日本の四季と「うつろい」の感性を考える 文学や文化全般の表現を通じて
3. 学会等名 ワルシャワ大学日本文化祭
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 青木 亮人
2. 発表標題 日本の俳句、アニメ、ポップス等は「青空」をいかに描いたか
3. 学会等名 ヤギェロン大学
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 青木 亮人
2. 発表標題 江戸の類型から明治の「写生」へ 浮世絵と洋画、江戸俳諧と近代俳句の美意識の差異について
3. 学会等名 ミュンヘン大学大学院日本近代文学研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 青木 亮人
2. 発表標題 近代俳句の「写生」について
3. 学会等名 ミュンヘン・アウグスブルク合同俳句会記念講演
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 青木亮人
2. 発表標題 Presence of "Mno no Aware" in the Literature, Anime and more
3. 学会等名 ウィリアム&メアリー大学
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 青木亮人
2. 発表標題 "Presence of Cherry blossoms in Haiku and Anime"
3. 学会等名 University of Washington
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 青木亮人青木亮人
2. 発表標題 俳句の特徴、魅力
3. 学会等名 ピッツバーグ日本語補習校
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 青木亮人
2. 発表標題 Utsuroi , Reflections of Japanese Culture in Haiku and Pop
3. 学会等名 愛媛大学国際連携機構
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 青木亮人
2. 発表標題 日本文化論、俳句及び季語、季節感と生活など
3. 学会等名 デュッセルドルフ大学
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 青木亮人
2. 発表標題 松尾芭蕉、伊勢神宮が象徴する日本文化の特徴
3. 学会等名 三重大学
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 青木亮人
2. 発表標題 日本語俳句の季語が担う時間性について
3. 学会等名 ミュンヘン、アウグスブルク句会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 青木亮人
2. 発表標題 俳句の「余白」について
3. 学会等名 ミュンヘン、アウグスブルク句会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 青木亮人
2. 発表標題 俳句、アニメに見る春のうつろい
3. 学会等名 カラマズー大学
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 青木亮人
2. 発表標題 「花」の明るさ 俳句やアニメを例に考える
3. 学会等名 ルイス&クラーク大学
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 青木亮人
2. 発表標題 俳句及びポップカルチャーにおける日本文化の特質、また強制収容所内の俳句の本質について
3. 学会等名 ユタ・バレー大学
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 青木亮人
2. 発表標題 俳句における季語の余情と日本文化の季節感について
3. 学会等名 ミュンヘン、アウグスブルク句会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 青木亮人
2. 発表標題 日本現代文学と「うつろい」について 俳句や短歌、小説等から考える
3. 学会等名 オクラホマ州立大学
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センター（共著）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 288
3. 書名 四国遍路の世界	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------